

合は苦勞するかなというのを感じました。また、配車係の車が他の車とぶつかってしまふ、そういったトラブルが続きましたが、そういう時だからこそ、みんなでもう対応していかうかという話し合いもできたのだと思います。8便までに築き上げていただいたマニュアル、そういったものを確立してきてくれたからこそ、助かった面はあったと思います。**山本**…その怪我や事故が出た便は、確かに記憶に残っています。そういう時の緊急対応は、便の中でもしつづ、ボラセンにも報告し、みえの事務局にも連絡してとなりますが、リーダー・サブリーダーで手分けをして対応したのでしょうか。また、他のメンバーたちは手伝ってくれましたか。

奥中…事故をした時に、相手の方に申し訳ないと菓子折りを段取りしてくれた女性の方がいました。みんなが自発的に行動して下さる、そういう雰囲気だったので助かりました。

山本…夜のミーティングで皆に考えてもらおうと。

奥中…ミーティングがないと、リーダーとサブリーダーだけで考えても進まないと思います。難しい意見もありましたが、その中でもバランスが取れたのは、よかったですと思っています。

太田…19便は経験者が誰もおらず、知らない者同士で人間関係をつくるのが一番苦勞したところと思います。最初の自己紹介が終わったあとも、なかなか会話が弾みませんでした。最初のサービエリアに着いて食事の際にメンバーの一人が、皆で一緒にご飯を食べようと言をかけてくれて、そこから一気に輪が広がっていきました。それが、すごく助かったですね。現地についてから話がスムーズに進んだきっかけかなと思っています。あと、メンバーの一人が少し心無い発言をし、それを聞いた他のメンバーとトラブルになってしまふかも、ということがありました。ですがリーダーが、どちらにも波風を立たないように、その場を上手く収めてくれたということがありました。

山中…私は、15便で参加させていただいて、15便リーダーの記録日記を全部プリントアウトして持って行ったんです。リーダー・サブリーダーは初参加で、私しか経験者が

いない状況でしたので、どうしても仕切らざるをえなくなりました。あと、学生さんが多くて困ったのが配車係です。当時は、ボラセンからの配車が少なく、私個人的には学生さんに運転をしてもらうのは嫌だったんです。近い距離ではありませんが、何か起こったときに若い学生さんたちに責任感を負わせるのは申し訳ないので、決めるのに困りました。活動自体は、二瓶さんの開拓された保育園での絵本の読み聞かせが毎日、8月31日で避難所が閉鎖という時だったので、支援物資の搬出作業と掃除や片付け、あと本の乾拭き作業というのがあって、延々と本を拭くという、その三つがメインの活動だったので、危険を伴う活動というのはなかったんです。参加された学生さんたちの中には、「以前からボランティアをやってます」と、やる気満々で読み聞かせに行行ったものの、子どもたちの心がつかみきれずに「失敗した」と言っていました。それもいい経験になったのかなと思います。

中田…35便は8人でした。男性3人女性5人。男性の方は結構慣れている方で、女性5人のうち3人はボランティア自体初めてでした。けど人数が少ない分、誰かが何かをやらなければいけないというので、役割分担はみんなやりやすくて言ってくれたんです。本当に最後の方の便だったので、いろんな点で確立してもらってあったので、苦勞という苦勞はあまり感じなかったんです。

山本…二瓶さんは、現地に滞在して、長くいろんな便を見てもらっていました。苦勞したこと、感じたことは、どうでした？

二瓶…夜のミーティングには、私は意識的に出席しなかったんです。私はあくまでもサポーターであり、サポーターとい



山中千聡さん

うのは現地活動の作業段階でのお手伝いだと思い、ボラパックスの人とは距離を置くべきだろうと私なりに考えました。ただ、最初からしつくりきてるグループ、なんとなくしつくりしていないグループ、そういうのは感じました。そこ意識していたのか、私なりの隠れた名物のラーメン屋さんに、グループ全員でラーメンを食べて帰るといふ機会を設けたり、あるいは、私の手元に魚の材料が入った時、鍋を作って、鍋を囲んでみんなで食べようじゃないかというような機会を何回かつくったりしました。要は、全く見ず知らずの集まりが、一週間の中で気持ちを一つにして物事に対処するということは、いかに大事なことを、皆さんに理解して肌で感じていただくことが、現地に詰めてる人間の役割というか、仕事の一部分かなと思いました。それが、一つの結果として、みえボラの成果となったんじゃないかなと思います。

山本…ありがとうございます。胃袋で仲間つくりをするというのは、すごく大事ですね。見ず知らずの人間がいきなり集まってチームになってください、と放り出されて簡単に仲良くなれるわけがない。ただ、何かしらお手伝いがしたいという方向性は、皆さん一致しています。その方向性をいかに仲良くするということにつなげていくのかは、これからの大事なノウハウになってくると思います。

〜チームワークつくり〜

山本…見ず知らずの人が多いチームをまとめていく、チームワークをつくっていくためにどんな工夫をしたか、教えてください。

大橋…会社でリーダー的に動いている人を責任者にし、その人を中心に、みえボラだけでご飯を食べ、喋ることを心がけました。知らない者同士が一緒にいるというのは、とにかく一緒に喋る時間を多く持たないといけないと思いました。

奥中…これも胃袋の話になってくるんですが、メンバーの誕生日会をしようということになって、特別に美味しいものを食べて、みんなで馬鹿なことをした記憶があります。胃袋と

座談会 ② 自己組織化

くみえ発！ボラパックにおけるチームづくり

平成23年度のみえ発！ボラパックは、スタッフが添乗せず、ボランティアの方々のみでチームとして活動していただきました。

一からチームをつくりあげる「自己組織化」について、当時のリーダー・サブリーダーの方々に話を伺いました。

出席者

大橋克哉さん（ボラパック第3便リーダー）

奥中雄二さん（ボラパック第8便サブリーダー）

太田安彦さん（ボラパック第19・22便サブリーダー）

山中千聡さん（ボラパック第24便サブリーダー）

中田一美さん（ボラパック第35便サブリーダー）

二瓶健さん（みえボラサポーター）

オブザーバー

若林千枝子（みえ災害ボランティア支援センター事務局長）

松岡佑美（みえ災害ボランティア支援センタースタッフ）

聞き手

山本康史（みえ災害ボランティア支援センター長）

（以後 敬称略）

山本…忙しいところ本当に皆さんありがとうございます。みえのボラパックは、バスに添乗員が乗っていないということが特徴でした。現地活動も参加者の中からリーダー・サブリーダーを決めていたというのが一つの特徴で、私たちは自己組織化と呼んでいます。その苦労とか、良かったこととか、実体験の中から次につながるようなお話を聞ければと思います。進行を務めさせていただきます、支援センターの山本です。よろしくお願います。

大橋…3便のリーダーをさせていただきました。よろしくお願います。初めてのリーダー体験でした。よろしくお願います。

奥中…第8便のサブリーダーとして、初めてボランティア活動に参加させていただきました。奥中です。どうぞよろしくお願います。

太田…太田安彦です。19便と22便のサブリーダーで行かせていただきました。よろしくお願います。

山中…24便、サブリーダーの山中です。大学生の参加者がとても多い便でした。よろしくお願います。

中田…中田です。35便にサブリーダーとして参加させていただきました。よろしくお願います。

二瓶…ひよんな縁から、みえの災害ボランティアに関わることになりました。5便から36便までの約半年、お付き合いさせていただきました。皆さんと一緒に活動できたことが、私にとって気持ちの中で非常に大きな財産になりました。おかげさまで人的なつながりもできたことは、私の宝だと思っております。よろしくお願います。

リーダー・サブリーダーの役割

山本…リーダー・サブリーダーはこんなことをやっていた、こういう苦労があった、というのを詳しく教えていただければと思います。

大橋…まだ、あまり情報がわからないまま行きました。出発当日、まずバスの中でいろいろな班の責任者を決めてくださいと言われました。初対面の者が32人、責任者を決めるという時も何も情報がないので、サービエリアに到着するまで自己紹介を延々とやっていました。本当にとにかく何か役に立ちたいという想いの方々がかりでしたので、責任者も心良く引き受けていただきました。メンバー32人の気持ちは一緒でした。現地の引継で、ボランティアセンター（以後ボラセン）の運営をしなければいけないと聞き、どうしたらいいんだろう？と、ディスカッションをずっとやっていました。いい経験をさせていただいた連帯感の強い3便でした。

山本…そこで苦労したという部分はどこですか？

大橋…時間がない中で引き継ぎましたので、どうしたらいいのかというのも、全部自分たちで考える必要がありました。3便の時期でも、まだまだみえボラの位置というのが不明確だったんです。静岡県、長野県、全社協、事務室の一角で陣取ってる方、いろんな方が

いる中で、みえボラの位置が非常に難しく、みえボラが一旦引いてしまうとボラセン自体が動かないということもありえるかもしれない、そこがものすごく気を遣ったところなんです。ボラセンという箱物の中で、役割とかが明確になっていればいいんですが、それがなかったので非常に苦労したんです。ですが、それがなかったから、次の人に自分たちの苦労をさせたらいけないと、それぞれの班でマニュアルをきっちり作ろうということになりました。最初の方々は本当に苦労しながらされていたと思いましたが、3便でもまた苦労はありました。

山本…1便〜5便までは、現地のボラセン運営のみえのボランティアでも担当させていただいて、センターの中にずっといましたので、非常に微妙な空気感をよくご存知だと思います。8便は、難しかったですね。8便の奥中さんは、どんな苦労がありました？

奥中…顔も見えない、喋ったこともない人ばかりでしたので、バスの中での役割分担・人選が非常に難しかったです。8便はがれき撤去がメインで、現地へ行けば常にトラブルだらけでした。がれき撤去中に、土のう袋から出ているガラスで足を切ってしまった方がいて、たまたま看護師の方がおられたので応急処置は出来ましたが、そういう方がいない場



大橋 克哉 さん